

(始良郡加治木町木田)

### 位置と環境

本遺跡は、網掛川中流の微高地に立地し、標高は6～11mである。遺跡の南側には、加治木町内で最も古いと伝えられる春日神社があり、古くから交通の要所であったともいわれている。

### 調査の経緯

調査は、一般国道10号加治木バイパス建設に伴い、建設省鹿児島国道工事事務所（現国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所）の依頼を受けた県教育委員会により、平成3年（1991）6月に分布調査を実施し、遺跡であることを確認した。

協議の結果、平成11年7月から8月に確認調査（一部全面）を実施し、古代から中世を中心にした遺跡であることが判明した。

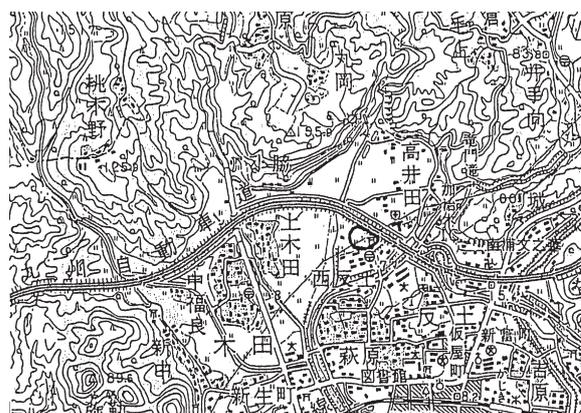
前年度の結果を踏まえて、平成12年5月8日から本調査を実施した。

### 遺構と遺物

本遺跡は、低地に立地しているということや水田地であったということもあり、各地点ごとに層位が異なるという状況であった。

調査区は大きく台地部と低地部に分けられる。平成11年度の調査は、台地部の東側から開始した。表土下の砂礫層から縄文時代前期の曾畑式土器、縄文時代中期の阿高式土器、縄文時代後期の指宿式土器・市来式土器・鐘崎式土器、縄文時代晩期の黒川式土器や磨製石斧・打製石鏃・スクレイパー・石錘等の石器が出土した。これらの遺物は激しくローリングを受け、摩耗した状態のものであった。上流の遺物が砂礫と混在しながら下流域へ流されて堆積したものであると考えられる。

台地部西側では、礫集中区が検出された。南側部分がほとんど削平され、全体像がつかめなかったが、この下位から長さ約25m、幅1～2mの礫敷溝状遺構が検出された。埋土から出土する遺物は須恵器・土師器のみであることから、古代のものであると考えられる。この遺構は、側壁に主として拳大の円礫を並べ、床面は砂利を敷いて堅く締めている。人工的に幅を広げた部分が2か所あり、溜枿状の機能が考えられる。また溝の中央の有段部分には人頭大の礫を数個組み合わせ固定している。礫を使い分け



第1図 高井田遺跡の位置

た丁寧な仕上げであることから庭園に関する遺構であることがうかがえる。

そのほかの遺構には、古代の掘立柱建物跡3棟、土坑1基、中世～近世の掘立柱建物跡1棟、溝状遺構3条がある。

縄文時代以外の遺物では、弥生時代中期の土器、古墳時代の成川式土器も僅かに出土している。また、古代の須恵器・土師器・紡錘車と共に、「之」の字の書かれた墨書土器も出土している。中世～近世の遺物としては、土師器・陶磁器・軽石加工品・土錘・埴埴・鉄製品・土製品・墓石等が出土した。

### 特徴

本遺跡は、この地域では資料の少ない古代の遺構や遺物が発見された。遺跡の南側にある春日神社は寛弘3年（1006）に当時の関白藤原頼忠の三男藤原経平が加治木に流され建立したとされている。また本遺跡は、真福寺という寺院の存在が伝えられる地域である。礫敷溝状遺構はこれらの社寺の庭園であった可能性も考えられる。

以上のことから、本遺跡はこの地域の古代を知る上で貴重な遺跡であるといえる。

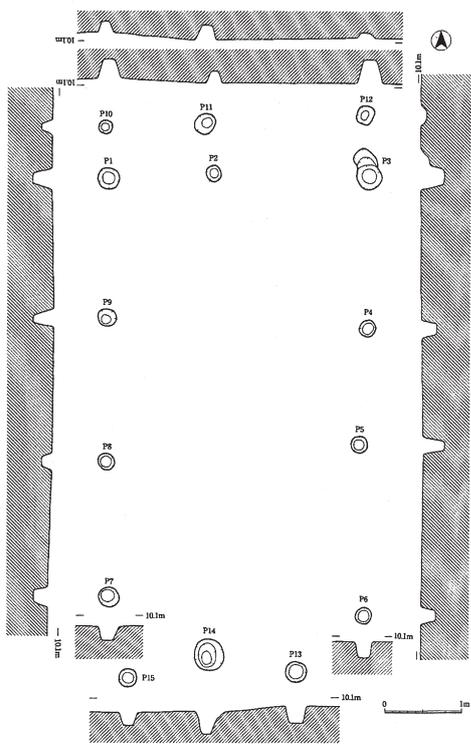
### 資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

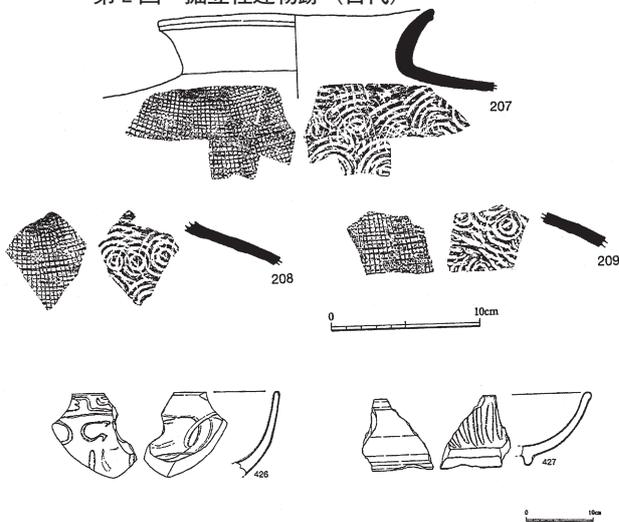
### 参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2002「高井田遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』35

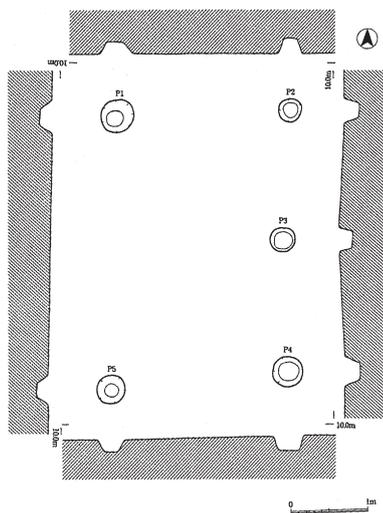
(森田郁朗)



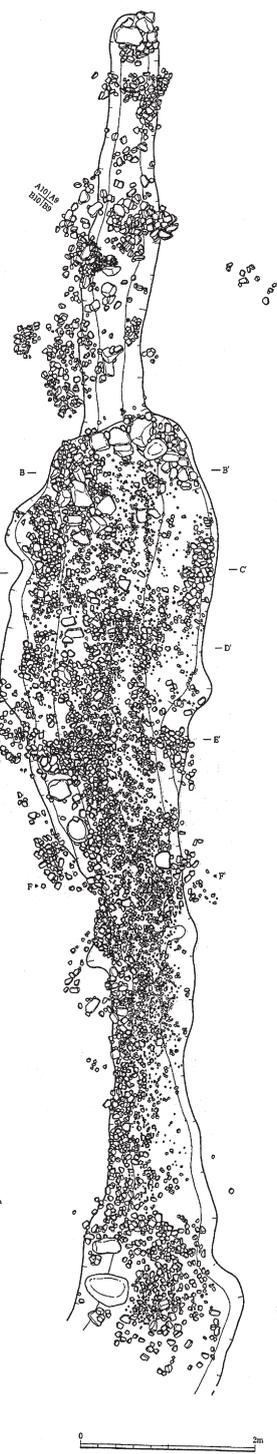
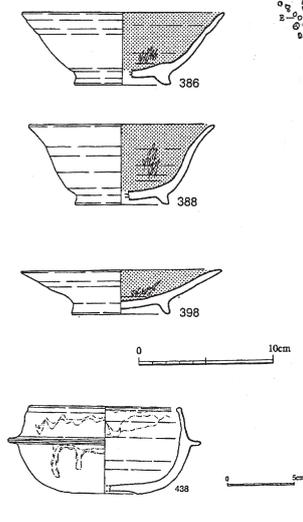
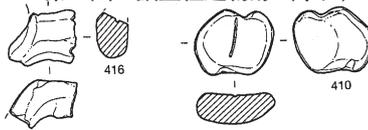
第2図 掘立柱建物跡 (古代)



第4図 出土遺物



第3図 掘立柱建物跡 (中世)



第5図 礎敷溝状遺構



高井田遺跡

写真1 高井田遺跡遠景